今後学童保育の施設設備が推進される（喜多児童館）

得ず15人程度と定員を定めているところであるが、今後、学童保育事業を推進していくにあたっては、十分な面積が確保できる場所の選定とともに指導員等の条件が整ったところから、施設整備を図るための経費などを平成22年度以降の補正予算等に計上することとし、保護者等にも十分な説明を行いながら、できるだけ、早い時期に最善の方向で開設できるように取り組んでいきたい。

問　指導員の雇用方針について

答　現在、喜多児童クラブにおいては、指導員を10名登録し、その中で勤務表を作成し、2名体制で対応しているところであるが、指導員の募集にあたっては、教員免許や保育士の資格を有している者並びに資格等は関係なく意欲のある方を雇用している状況であり、今後、事業拡大に伴い、そういった条件を踏まえ、それぞれ各児童クラブに配置していきたいと考えている。

建設農林委員会

委員長　福　積　章　男

◆I・Jターン定住促進支援事業費補助金について

説明　人口の減少に伴い第1次産業が衰退するとともに、耕作放棄地が増加し、集落機能の維持も困難になるなどの影響が出ている。その対策の1つとして、当事業は第1次産業従事者としての人材の確保・育成を図るため、本市に生活基盤のないI・Jターン者で第1次産業に就業し、かつ市内に定住する50歳未満の方を対象に、家賃の一部を補助することで、定住促進を図る事業である。

要望　今回2名分の予算措置であるが、この施策をもっと拡充し、今後この事業を契機に様々な分野で積極的に取り組んでほしい。

◆地産地消モデルタウン事業について

問　ブランド化と事業の現状について

答　4月オープンの『愛たい菜』の運営面については、コンサルティング業務として、食材の研究をしている方に、ソフト面を中心にアドバイスを受ける予定である。また平成21年度から地産地消 推進協議会を組織し、学校給食のメニュー開発や地元食材供給率の向上を図るための検証やドレッシングの開発、大洲農高との連携によるレシピ集の作成など、農産物直売所だけでなく、当市全体における地産地消の推進を図っていく当事業を有効に活用していきたいと考えている。

農産物直売所「愛たい菜」

◆鹿野川地区まちづくり交付金事業について

問　事業内容について

答　この事業は肱川町の鹿野川地区において、国のまちづくり交付金を活用し、地域の振興を図るとともに、個性あふれるまちづくりを推進するため、平成19年度から23年度までの5年間で、延べ10事業を約3億7、400万円で整備する計画である。平成22年度は市道ダム河辺橋線道路改良事業、街灯整備、並びに観光施設への誘導のための案内サイン工事等を計画している。

◆畜産業の振興について

問　畜産業の現状と振興対策について

答　乳用牛農家は26戸で800頭、肉用牛は26戸

議会豆知識　～議会の活動～

Q.　議会はいつ開催されるの？

A.　定例会が年4回（3，6，9，12月）あり、必要に応じて臨時会が開催されます。

Q.　本会議とは？

A.　全議員が議場に集まり予算や条例等の議案を審議する会議で、議会の意思はすべて本会議で決定されます。また本会議では、市長などに対して市政全般についての質問も行われます。

Q.　委員会とは？

A.　本会議で審議する内容を分担して詳細に審査・調査する機関です。委員会には常設の常任委員会、臨時的に設置される特別委員会、及び議会の運営を協議する議会運営委員会があり、議会の会期中はもちろん、閉会中においても開催されます。